

# 住宅

の

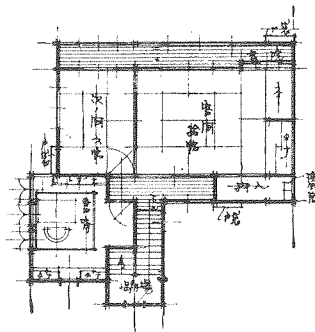
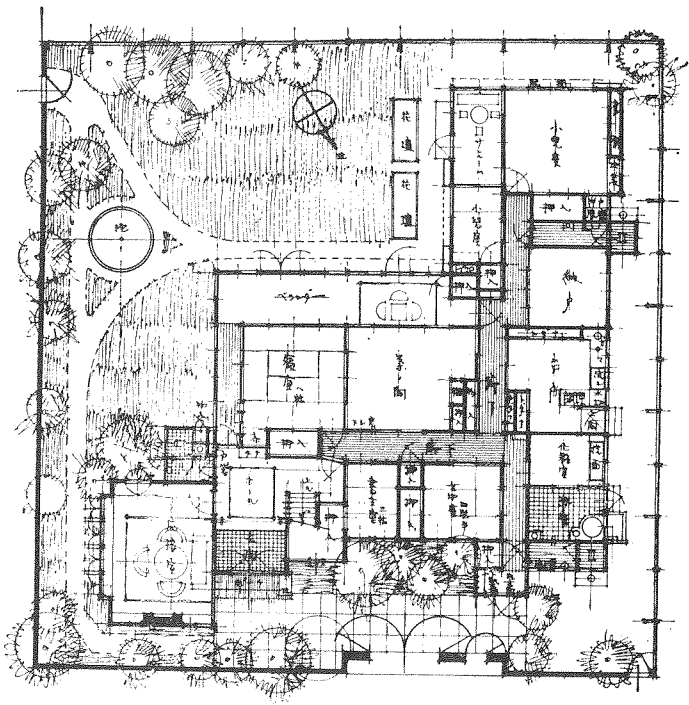
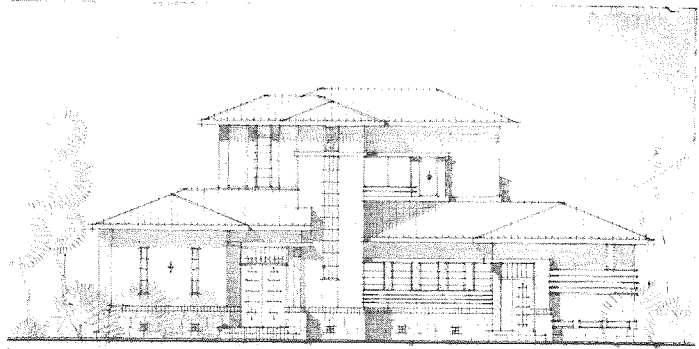
# 諸想

能瀬久一郎

日本で住宅の改良を稱へられ出したのは大正七八年頃かと記憶してをります。この十數年の内に種々の流行變遷を見ました。一時はひたすらに歐米の流を追ふに暇なかつた風であります。今日ではその改良郷土化が加えられつゝあります。そして近代人の生活に合理した姿を此方彼方に見出し得るやうになりました。

そういふ一つの例として最近青山に建築された知友笹倉梅太郎氏の作品をお目にかかせよう。

日本間を主とした間取で正方形の敷地に巧に設計され、



笹倉梅太郎氏作品

上正面圖姿

中平面圖

下二階平面圖

和洋兩様式が良く混和されてをります。

次に郷土化した住宅の例として私の作であります。茅ヶ崎海岸に建てられた春陽會の小山敬三畫伯のアトリエをお目につけたかつたのでありますが相憎手元に寫眞がないので又何かの機会にゆづります

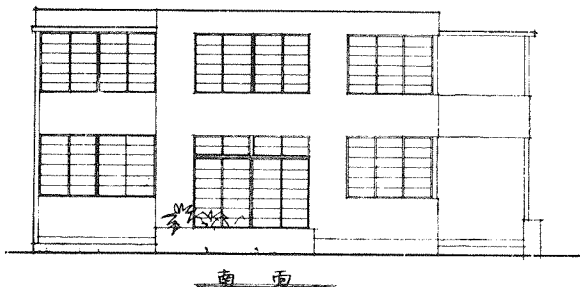
今一つの傾向は日本趣味への逆行であります。最近募集された住宅圖案の中に日本趣味を多く見出し得られます。この一例とし杉原啓一郎君の作品を頼んだのですがこれも間に合ひませんでした。

最後に現今吾々の研究課題があります。それは乾式構造家屋であります。この乾式家屋については今月「建築研究」に一文を乞はれて書いたから此處には詳細の話を省きますが、外部は柱の外に纖維板を張りその上にオーフィングを張つた上に二尺に三尺の石綿セメント板を張り、内壁と天井とは浴室便所押入等の外はトマテックスの様な纖維板を張り、浴室便所臺所は石綿板を用ひ、押入にはベニヤ板を用ひますかうして塗壁材を使用しないので雨

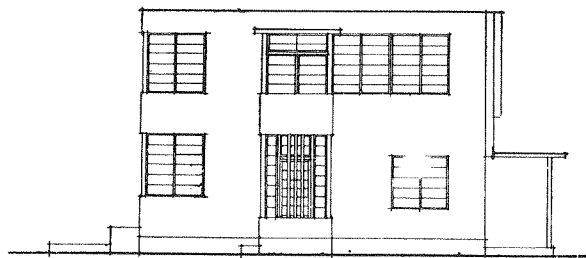
天の日も工事がどしどし進行することが出来ます。下圖はその一例です。

しかし現在の外壁材は完全なもの云へません、その材料は工法と同じくまだまだ研究を重ねねばならないものであります。

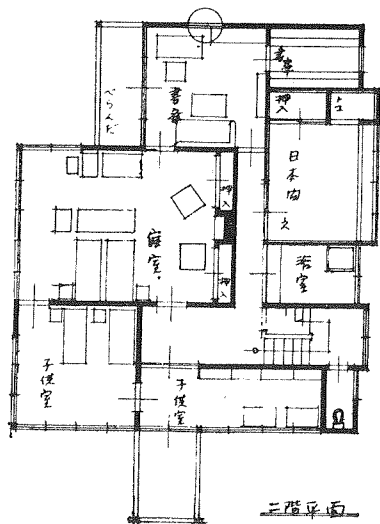
能 瀬 久 一 郎 氏 作 品 ・ 乾 式 建 築



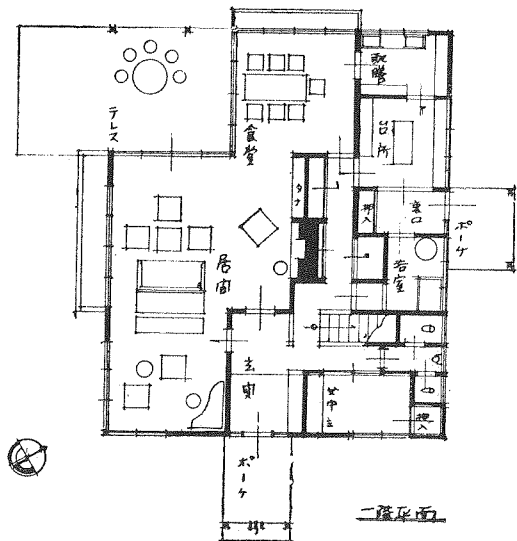
南 面



正 面



二階平面



一階平面